

～欣浄寺法語メール～2016年2月～

今月2月15日はお釈迦さまのご命日でした。法語カレンダーにその日は、涅槃会（ねはんえ）と記されています。80年のご生涯を偲ぶ仏事に「寝釈迦」があり、この地方では鈴鹿の神戸（かんべ）が有名です。大きな掛け軸にはお釈迦様のご臨終の様子が「寝釈迦」として、たくさんの人・動物たちに囲まれて描かれています。お釈迦さまを出産して7日目に亡くなった母マヤ夫人、悲しみのあまり気絶した弟子の阿難（あなん）尊者、あまたのお弟子達、そして全ての命は等しく尊いとお説きくださったことを象徴するたくさんの動物達。

その中で、ただ一人お釈迦様の体に触れている老女がいます。お釈迦様35才のおり、

苦行の果てやせ細ったお姿を哀れんで乳粥（ヨーグルト）を施したスジャータです。そう、あのコーヒーミルクの名前の由来となった女性です。生涯伝道の旅を続けられた足を、また臨終近くなり血流が届かずむくんできた足をいたわるかのようにさするその姿は、全仏教徒を代表してお釈迦さまに感謝しているかのようなようです。

明日26日から三日間、お釈迦様がお説きくださいましたお経がいついつまでも伝えられるように願って勤められる春の永代経です。お誘い合わせ、お参りください。